



和漢繪入

奇異雜談集

五

3193
5
13



3193
5

森氏
新宅

奇異雜談集卷第五

目錄



- 一 硯いんとれれ鈴すずの子こああくく天てん上じやう寺じ幸しやう
- 二 壺か竈かまど大おほ端は乃の内うちりり瓶びんののひひけけらら紙しののううらら
- 三 三さん茶ちやの子こ小こ刀たがひとと盜たうののわわららももひひししるる
- 四 婦めづ乃の魂たま魄は妹いのの新あらたととりり更さらぬぬ終つひりりししまま

奇異雜談集卷第五

一 硯とれ龍のみおとく天とせし事

武蔵の坐れ人々ありていづくにびらみ金河の宿と云
人あり。國のむらうらんよ。老のさやくし。今や
うへにたり。びら金河金世のこれ。祿宗の寺あり。
寺号 僧敷夫人。うらり沙湯あり。寺に書實は硯一丸
あり。あつねむし。硯あり。うらり。硯とめてあり。ま
とくる。硯とら。あつねむし。硯あり。硯の書實あり。
あつねむし。硯のうら。方々あり。わけと硯。書沈のど
し。硯の硯とせ。硯あり。し。あつねむし。長老傳
者。沙湯。念。敷人。座あり。あつねむし。硯。年。志

時よりよくしらむに... 観の中... 板のふにあり... 次長光割... 糸のせく... ありく池... されん... さい... さい... さい...

雲くさりて... 電雷... 寺中... 先... して... 是... 寺... して... あり...

さらの件よりいふとこれに家中にのみしつて
 いち由母房と市女即して賣るゝとてあつち
 りよ入とあつちにつけく移く。決まり乃市女と移らん
 と思ふ。通言入丁ゆげぐ。此よんとみく。こゝ
 ふに小男一人移しにらして我とすつて。づつこゝ
 とやふ市へ房とりに移く。こゝ小男のやとこれ
 ぐ。之房といは移く。わりのこゝは妾女とくひん
 とふ。いづくかあつちのゆもあれ。こゝも一やと
 かつ移しり房とあせばら。こゝに房なり。代と五百
 文。あつち。こゝもあつち。こゝも。こゝも。小男代五百
 文。こゝも。こゝも。こゝも。こゝも。こゝも。こゝも。

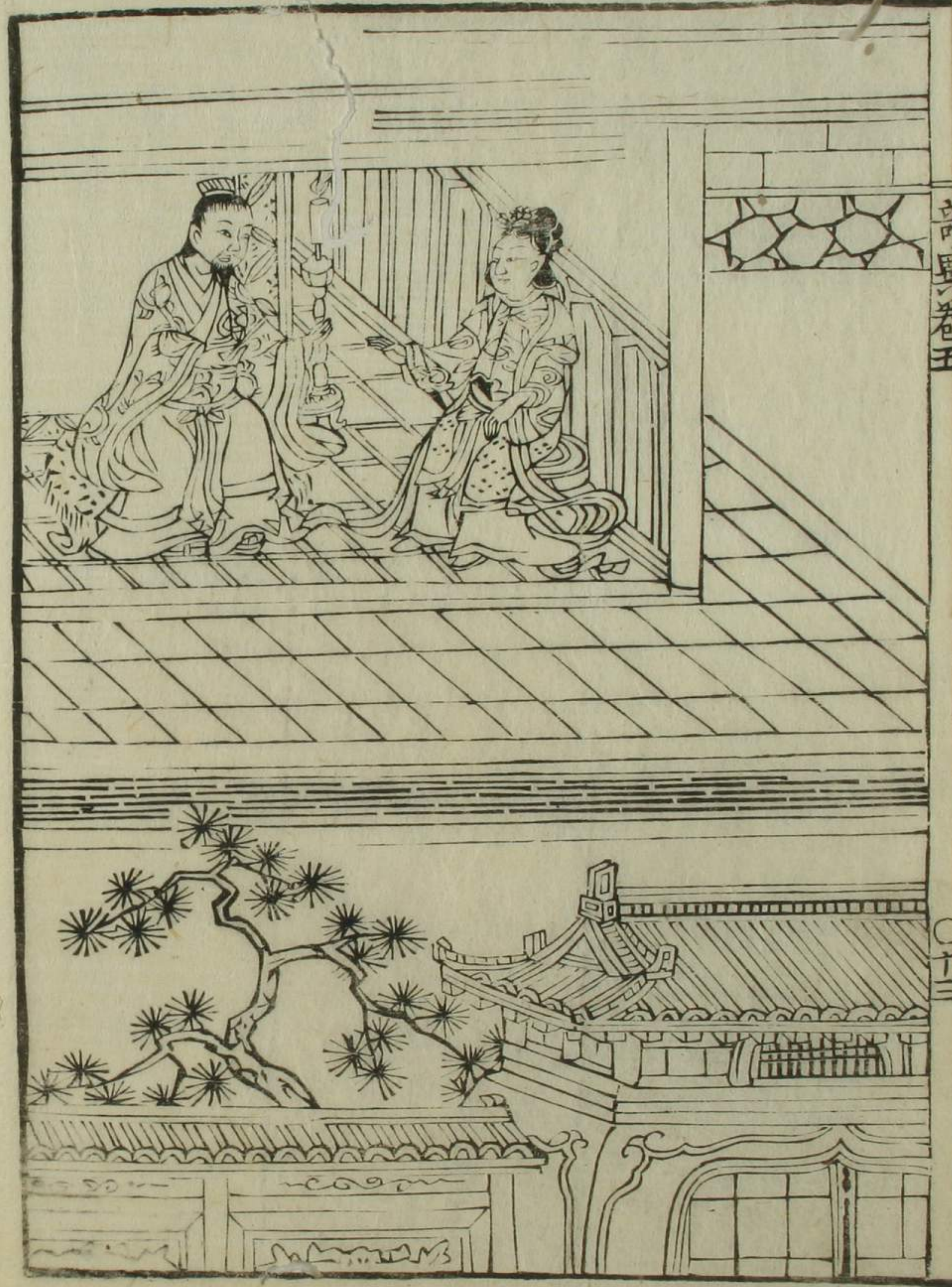
入て。こゝも。いづくかあつちのゆもあれ。こゝも一やと
 かつ移しり房とあせばら。こゝに房なり。代と五百
 文。あつち。こゝもあつち。こゝも。こゝも。小男代五百
 文。こゝも。こゝも。こゝも。こゝも。こゝも。こゝも。
 男よ。いづくかあつちのゆもあれ。こゝも一やと
 かつ移しり房とあせばら。こゝに房なり。代と五百
 文。あつち。こゝもあつち。こゝも。こゝも。小男代五百
 文。こゝも。こゝも。こゝも。こゝも。こゝも。こゝも。
 世女。いづくかあつちのゆもあれ。こゝも一やと
 かつ移しり房とあせばら。こゝに房なり。代と五百
 文。あつち。こゝもあつち。こゝも。こゝも。小男代五百
 文。こゝも。こゝも。こゝも。こゝも。こゝも。こゝも。
 じ。いづくかあつちのゆもあれ。こゝも一やと
 かつ移しり房とあせばら。こゝに房なり。代と五百
 文。あつち。こゝもあつち。こゝも。こゝも。小男代五百
 文。こゝも。こゝも。こゝも。こゝも。こゝも。こゝも。
 家。いづくかあつちのゆもあれ。こゝも一やと
 かつ移しり房とあせばら。こゝに房なり。代と五百
 文。あつち。こゝもあつち。こゝも。こゝも。小男代五百
 文。こゝも。こゝも。こゝも。こゝも。こゝも。こゝも。

よゆく髪と釵よりもて。くはくときげて。年
くくてもくくたり。日平よのり。此女の筋曲とよ
くくたり。釵と金浪洞鉄湯松骨角竹本
とくくたり。くくくくくく。釵乃端よ。花のふくひ
とくくくく。くくくく。金鳳と金とくくく
風とくくく。くくく。日平にくくく。天冠あり
楊貴妃乃端よ。くくく。くくく。くくく。記
とハ金鳳釵の物語と記とくく也
元朝乃大徳年中の事なり。楊列の呉清潔と云
のあり。やうに。人あわく。人あく。富人なり。その
くくく。くく。くく。人あく。富人なり。その
くくく。くく。くく。人あく。富人なり。その



てよまをせだはよ移くことわさるゆへに。我家に久
可し。おのびとわし。年より座して。敷よとあま
年としの縁ゆかりこそ。ちんね。家よ。音おととら。と。なるま
らり。こと。に。わし。ん。家。居。い。ん。と。敷。息。一。且。移。す。ら
るに。我家の。門かどよ。ま。く。く。あ。わ。り。も。そ。こ。や。ん。と。あ。せ
ど。し。え。く。も。ゆ。よ。も。ひ。で。戸。と。あ。り。あ。ら。な。る。家。中
よ。人。親。わ。り。さ。の。わ。く。と。よ。く。ま。し。て。り。は。ど。の。こ。ら。あ
女の。し。ほ。ひ。も。び。つ。ら。り。崔。弄。と。移。す。拒。ん。や
と。れ。と。女。と。し。に。座。よ。つ。と。し。こ。ら。と。あ。ら。な。る。と。
は。り。て。ら。海。や。う。ま。う。ら。り。て。り。て。我。と。真。娘。の。い。り。と。
そ。又。娘。あり。君。の。宗。格。と。う。べ。と。あ。ん。が。こ。ち。に。い。り。の。あ

あ。じ。し。ま。れ。と。い。ふ。崔。弄。が。い。く。多。徳。と。て。ご
一。と。い。う。と。人。の。あ。ん。と。い。う。ん。老。父。あ。ら。な。る。他。り
あ。ん。と。い。う。と。あ。ま。し。く。我。と。に。老。父。乃。理。と。い。う。と。
小。さ。な。づ。い。と。も。や。く。あ。ら。り。娘。と。い。ふ。女。の。い。く。と。死
小。徳。う。下。ら。り。全。風。波。と。あ。げ。と。君。と。れ。な。や。と。れ。家
と。い。う。と。ら。り。と。い。う。と。い。う。と。我。の。家。の。こ。ら。と。い。う
と。い。う。と。あ。ら。り。と。い。う。と。人。と。い。う。と。父。母。と。い。う。と。あ。ら。り
と。い。う。と。あ。ら。り。と。い。う。と。怒。と。い。う。と。あ。ら。り。と。い。う。と。あ
崔。弄。と。い。う。と。あ。ら。り。と。い。う。と。崔。弄。と。い。う。と。辞。と。い。う。と。あ
と。い。う。と。家。中。と。い。う。と。あ。ら。り。と。い。う。と。女。と。い。う。と。崔。弄
多。徳。と。い。う。と。あ。ら。り。と。い。う。と。あ。ら。り。と。い。う。と。あ。ら。り



次乃我々いふは、
 未入らるこ。一月廿六日、
 今やあまの人のまはるは、
 くののまのまはるは、
 かく先父のせまわ、
 我國行くあり。母のむら、
 乃國とあはゆ、
 々玉とりて、
 らんとりて、
 庵くともあひ、
 父権卿君の時、

漢江縣よ家君とて母は極く極うんづれなり敷
目の母は代名を河舟とてゆばおんのまづひくわ
らんめり舟と名くくして米取極うんとて
ひかりり女は極うんで米取に并に
うくし金風釵と名くして
のりてりあり敷目ゆるや
金采が家とて名れが
しとてあり松村の長とて
よ一後うんで
先々も
うひり我乳子の時乃名と

よゆらうとて
らら中堂とてわあして
東海とてとて
親族あり少婦と具とて
とてとてとて金采それ先主の
此つやくらん今も
らら折悦あり且又乃食
皆くとのつとてあき
とてとてとて日月あ
一年られり父母の
とてとてとてとてと

新編

二

かみえとて後うんで。友人のほととてよまわらう。ど。
儀しとていふらむ。友人のほととてよまわらう。ど。
のほととていふらむ。友人のほととてよまわらう。ど。
しとていふらむ。友人のほととてよまわらう。ど。
いとていふらむ。友人のほととてよまわらう。ど。
つとていふらむ。友人のほととてよまわらう。ど。
どとていふらむ。友人のほととてよまわらう。ど。
んとていふらむ。友人のほととてよまわらう。ど。
く。友人のほととてよまわらう。ど。
わ。友人のほととてよまわらう。ど。
口の。友人のほととてよまわらう。ど。

しとていふらむ。友人のほととてよまわらう。ど。
しとていふらむ。友人のほととてよまわらう。ど。
しとていふらむ。友人のほととてよまわらう。ど。
しとていふらむ。友人のほととてよまわらう。ど。
しとていふらむ。友人のほととてよまわらう。ど。
しとていふらむ。友人のほととてよまわらう。ど。
しとていふらむ。友人のほととてよまわらう。ど。
しとていふらむ。友人のほととてよまわらう。ど。
しとていふらむ。友人のほととてよまわらう。ど。
しとていふらむ。友人のほととてよまわらう。ど。
しとていふらむ。友人のほととてよまわらう。ど。
しとていふらむ。友人のほととてよまわらう。ど。

金風奴と市ゆりて銀二十錠とえてその代り
 焼馬蠟燭等次第次第買て浪俱よ齋
 し瓊花觀とり山の上の寺よまうて。達磨と
 通しよ命して三日三夜とひとまて。人爰よ崔
 弄玉よみていそく君のうづひもけく尚解悟あり
 曲めを命づけしとも海とんうく感むらうりい
 とを娘柔和をり。あつく是とんけよと
 ころくさわころ崔弄玉とらうとんてあま
 ころり。け異けいふふ

奇異雜談集卷第五終

奇異雜談集卷第六

目錄

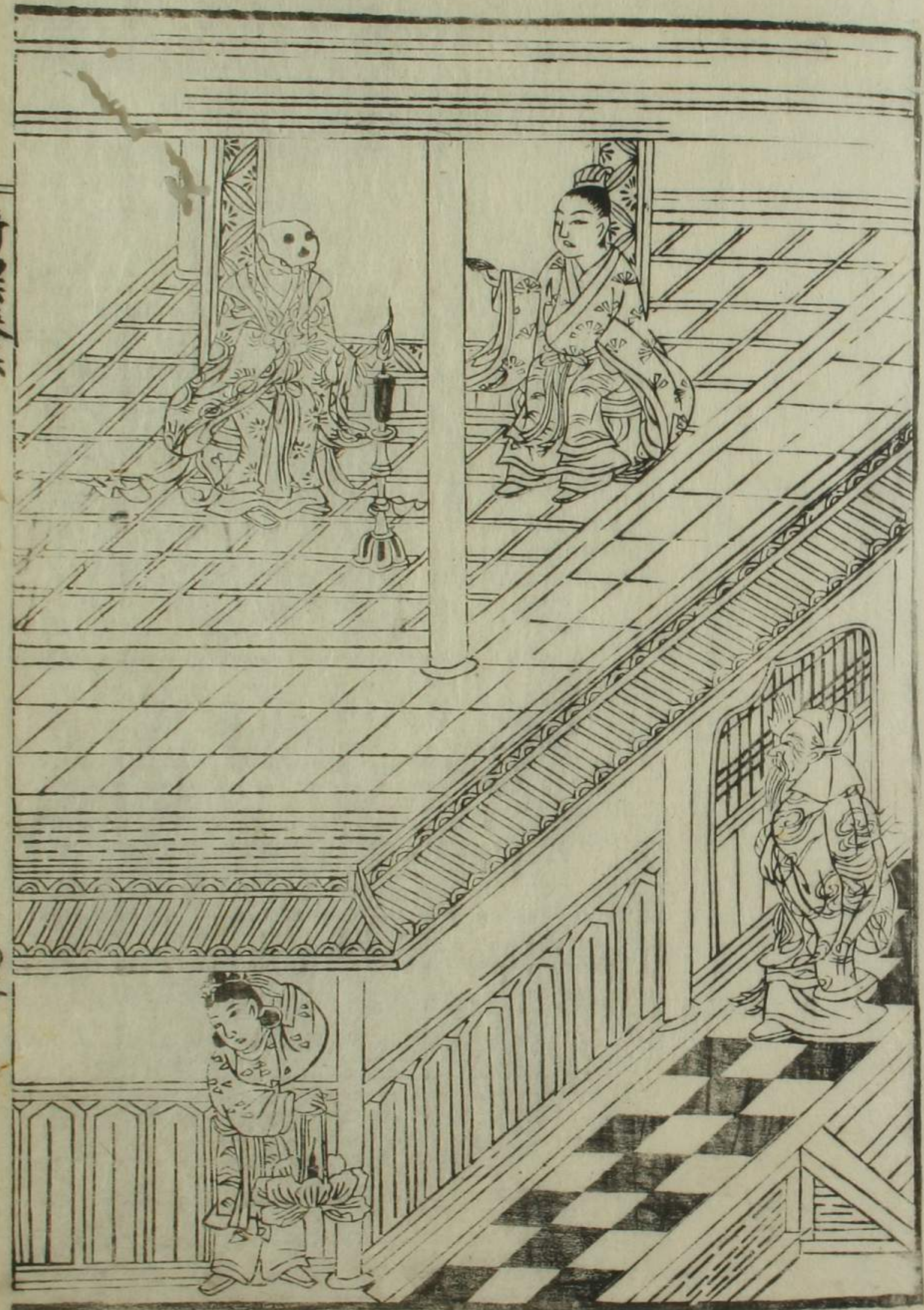
- 一 女人死後男と信の心(引)ゆらうと事
- 二 千將真那の奴の事
- 三 弓馬の法ゆらう中陽洞ゆらう三女と事

奇異雜談集卷六

奇異雜談集卷第六

一 女人死後男を棺の門へ入りし事あり

唐の正月十六日の夜、某の門より一をとりて、
襦袢を穿て、その門より入りて、門より入りし男
女は人として、腕より入りし事あり。其の事、
事。即ちその事、腕より入りし事あり。其の事、
とつて、一年、其の事、腕より入りし事あり。其の事、
の事、腕より入りし事あり。其の事、腕より入りし事あり。
と申えし事あり。其の事、腕より入りし事あり。其の事、
よ唐の正月十六日の夜、某の門より一をとりて、



してゆく我が御はらうしとてつらして身ざり給らんや
 けるやとりど。女と申しつらうもごふ初髪とて名を
 金蓮とてし牡丹灯とていづく。されよ侍くぞとこれ
 さら女乃もよとてして我が御より入る。金蓮とていん
 一乃ちうに初せしめ。女と申し堂よ侍しつらなりとて
 ぶ所の徳遇とて情とこれ花とていづく。とてあつて飲
 ととつて世ぬぬむひらうこも情なり。因よその姓名や
 右とてらひとて女といく。姓とて侍はる。名は藤御。
 字々芳叔とてあつら。故奉化判のじとてわける。
 元んもよとていづく。又母兄弟の親親一族のし
 親君とていづく。世の縁とていづく。はらうしとていづく。

道と二人音と聞西よまらるるのなつらふらふ
 おもひなりしをいふらんわらわはわらわは
 さつありき高きまらちのちちちちちちちちち
 おもひなりしをいふらんわらわはわらわは
 ままままままままままままままままままま
 しほひのままままままままままままままま
 おもひなりしをいふらんわらわはわらわは
 まままままままままままままままままま
 まままままままままままままままままま
 目つらふらふらふらふらふらふらふらふら
 いふらんわらわはわらわはわらわはわらわは

くちんけんけん陽氣がれをいふらんわらわは
 子陰氣なり今油骸骨の妖魅とわらわは
 くちんけんけんけんけんけんけんけんけん
 くらんけんけんけんけんけんけんけんけん
 まままままままままままままままままま
 うまけんけんけんけんけんけんけんけん
 し。高きまらちのちちちちちちちちちちち
 らひとまらちのちちちちちちちちちちちち
 りひとまらちのちちちちちちちちちちちち
 まままままままままままままままままま
 月遊の西よまらるる長吃のまらちの下よまらるる

西の人かゝの藤人よらん。これよりごまありの目さ
 むらん。高生遊公寺の門かへく。糸乃廊
 架とゆゑはくして。西乃廊架よりつりて。好け
 むらう。これにゆふ。のち堂わり内は。柁わり。白
 紙。その名とく。そ。懸。つり。文。い。う。故。奉。化
 符。列。判。の。む。と。あ。廉。卿。乃。柁。と。う。く。前。日。双。駝。志
 牡丹。灯。と。う。け。下。日。一。乃。了。衆。の。童。女。と。ま。う。う。と。
 その。う。後。日。金。蓮。の。二。字。の。わり。高。生。これ。と。ん。く
 所。の。毛。ぐ。ら。も。い。ご。ま。く。ぼ。口。と。寺。と。あ。て。後
 全。う。り。み。ご。て。え。子。り。り。海。東。と。あり。の。ゆ。これ。が
 家。日。高。と。う。り。て。は。か。さ。に。う。り。て。う。ま。と。ゆ。あり

中。の。の。う。く。玄。妙。親。の。魏。法師。と。政。宗。符。は。真
 人の。才。子。の。り。符。乃。ご。く。尚。時。中。一。と。も。り。也
 ゆ。色。の。ゆ。と。て。是。と。り。と。あ。よ。と。云。明。且。日。高。生
 玄。妙。親。の。内。日。後。と。れ。は。法師。その。ゆ。と。ん。て。か
 とう。と。て。い。う。く。妖。亂。と。い。ま。う。と。あ。う。ご。も。く。深。く
 口。づ。ん。と。て。う。ら。い。と。ゆ。や。と。高。生。と。あ。う。り。度
 下。に。ゆ。し。て。は。か。う。と。その。り。紙。と。れ。は。法師。来。乃
 符。二。は。う。と。さ。の。も。く。一。と。は。門。は。い。と。は。摩。也。と。う
 一。じ。の。と。の。り。と。あ。く。い。う。く。あ。く。う。の。湖。公。寺。よ。り
 して。あ。れ。し。う。と。あ。め。と。り。り。高。生。符。と。う。け。く。え
 口。ま。その。ゆ。が。く。と。れ。は。の。の。と。う。と。て。う。と。う。ご

ある。二月の初より。高生知事になりて。いづく
も。衣練橋のわたり。ゆき。友と。りんと。いひ
その。ら。敷目。高生と。み。た。れ。ど。初。ま。その。久。く。え
ら。ざ。り。こと。と。あ。や。ー。ん。て。衣。練。橋。乃。も。は。極。え。て
その。との。の家。と。い。ん。ど。友。の。つ。く。高。生。敷。目。え。れ。ゆ
ら。に。い。て。酒。と。の。そ。て。よ。ひ。て。う。ち。遊。戯。寺。み。ら
と。極。く。と。み。く。ぞ。の。ら。ら。ま。く。ば。ら。み。初。ま。れ。り。人。羅
々。酒。よ。ま。い。て。魏。法師。の。つ。り。先。と。い。と。れ。又。遊。戯。寺
ま。ゆ。く。や。い。ひ。く。遊。戯。の。門。は。入。西。廊。と。極。く。は。く
と。い。古。堂。の。内。は。極。あり。あ。つ。この。る。り。衣。の。裳。は。に
お。り。是。高。生。が。裳。く。る。り。と。り。極。の。あ。い。白。紙

は。け。ら。高。生。が。ゆ。り。あ。く。び。も。双。次。乃
牡丹。灯。と。け。童。女。の。う。ゆ。よ。金。蓮。の。二。の。の。の
乃。も。い。や。い。く。え。れ。も。く。極。と。め。れ。寺。傍。も。は。は
ち。く。極。乃。う。さ。と。の。こと。と。つ。く。わけ。て。も。れ。高。生
死。して。う。は。よ。き。そ。よ。は。あり。女。も。あ。あ。こ。し。下。に。あり
女。の。う。ゆ。せ。け。け。ら。く。寺。傍。款。下。て。つ。く。と。れ。と
乃。奉。化。列。判。符。君。の。じ。と。め。け。り。死。せ。り。時。年。十七
極。も。あ。り。て。う。に。と。く。ぞ。の。と。れ。親。族。一。家。中。皆
う。に。う。ゆ。そ。う。ら。は。あ。も。言。伝。と。絶。ち。ま。り。十二
年。か。ら。あ。り。ん。ご。り。と。疾。病。と。け。ら。く。の。ぐ。れ。く。な
らん。と。つ。は。井。二。の。う。ら。終。乃。極。あ。く。び。も。金。蓮。人

紐のえーしとあまごぶーし千将ともつらその
 ろさばべささくはちのし雄紐ともつらその
 くららの内もくーしとみうさうさうかゆゆり
 我妻の真那もつらとささとしぐみ乃眉回人せり
 じの時れとふりさぶーしとつらと詩一角とさその
 とさうーして千将と命とけつらされー也つら
 徳人の物とみうはしとつらと侍の文も回
 日ひづらも小戸こと 南山なんざん有松ゆうしょう 松生しょうせい於石おのいし 汎はん在ざい其中そのちゆう
 とさのつらもそのみせり人をも眉回人ともさくもさ
 一西人さいじん々々若者わかしよがさうーしとみうさうさうかゆゆり
 又々いづくみわふや母ともつらとつらとささし前車まへくるまとさ



又ももげぬは毒部ととりて死をいりんや今ならこよ
 うれづつぬもまうゆよ。もらう死はこよ向あり
 このよき生山は入く麻とらゆゆんはこれよの
 今あまともらも又うに愛ぬ石徳はこりてあま
 みくどまうらあまこれよとらこりてあま
 こゆゆらも後とらとらこりてあまこりてあま
 三人のあまこれよとらこりてあまこりてあま
 のこと。うらもこりてあまこりてあまこりてあま
 めして後よあづらなり。いのらとゆらとらこりてあま
 まうのまゆん。あまららまこりてあまの姓名。あま
 とら三女よのこりてあまこりてあまこりてあま

ち浅く明しとめあり。その二女もうこ道里。あま
 のしとめらり。あま生三女とらこりてあまこりてあま
 とらとら。その道とらこりてあまこりてあまこりてあま
 ころも。あまらら。あま又。あま人。あまこりてあま
 福来とらこり。あまこりてあまこりてあまこりてあま
 あまこりてあまこり。あまこりてあまこりてあまこりてあま
 扱ふ。二十八。あまのこりてあまこりてあまこりてあま
 小あまこりてあまこり。あまこりてあまこりてあまこりてあま
 うらこりてあまこり。あまこりてあまこりてあまこりてあま
 よあまこりてあまこり。あまこりてあまこりてあまこりてあま



一り金^{もん}玉^{たま}の^まぐ^りひと^ありて^まあ^せが^まん^よと^りり
 あ^みや^まぐ^いく^るん^らぐ^らと^も神^{かみ}通^とと^をと^るべ^ーん
 そ^とも^みつ^らつ^もま^わら^じう^くや^と白^く衣^のの^いく
 者^{もの}あ^らむ^め百^{ひゃく}葉^はれ^もぞ^も八^{はち}百^{ひゃく}葉^はこ^とり^り
 歌^{うた}ら^くあ^らと^とら^に群^{ぐん}像^{ぞう}母^{はは}と^らこ^もあ^らひ
 ら^くゆ^んの^か答^{こた}と^えら^えて^し手^てと^君も^うら^のこ^とと^らを
 か^から^くあ^らく^るん^のあ^ら君^{きみ}一^いく^くう^く制^{せい}ら^ら
 本^{ほん}や^んや^しつ^わく^らふ^らふ^らり^らあ^らに^あま^まと
 ほ^くい^く洞^{どう}と^申陽^{やう}と^あら^らい^ぞの^後い^づく^あら
 や^白衣^のの^いく^後と^らら^ら申^のの^まぐ^りひ^あり^あら^らが

孟子四章
孟春穀日

江都富野治在衛門繡

京上茨木多左衛門梓

乃

